

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	福岡県立三井高等学校 1年生 171名 2年生 167名 3年生 164名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体 育) ② 行事名 (オリンピック・パラリンピック教育 障がい者スポーツ選手招聘事業) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	障がい者スポーツ選手を招聘して講演会を実施することにより障がいに関する理解を深めるとともに、パラリンピックや障がい者スポーツへの関心を高める。また、選手との交流を通して共生社会の実現に積極的にかかわろうとする態度を育成する。

5 取組内容

1 8月下旬 講師決定

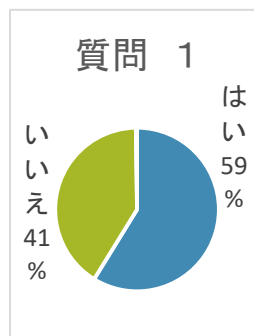
山下慎治氏 (ブラインドマラソンシーズンアスリート所属)

2 9月上旬 事前授業

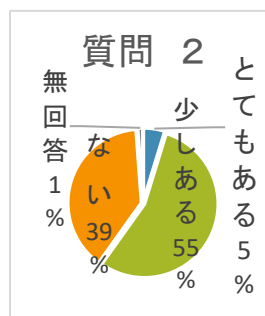
1、2学年体育授業において、パラアスリート道下美里のドキュメンタリー映像を視聴

3 11月上旬 事前アンケート実施(全校生徒)

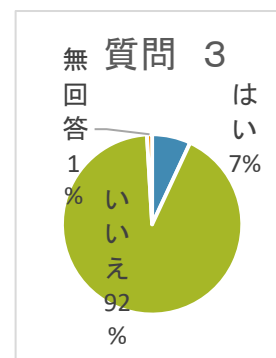
1 次の夏季オリンピックはいつ(西暦、どこで(都市名)開催されるか知っていますか。



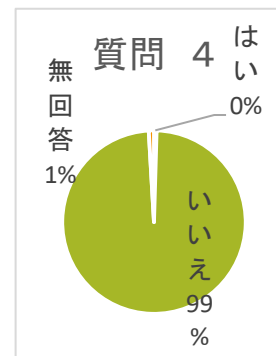
2 パラリンピックや障がい者スポーツに興味がありますか。



3 2016年パラリンピック・リオデジャネイロ大会において日本人がメダルを獲得した種目を知っていますか。



4 ブラインドマラソンでメダルを獲得した福岡県在住の選手名を知っていますか。



事前学習においてDVDを視聴したにもかかわらず、質問4で正答がなかったことは残念であった。

4 11月14日
2限 講演会（体育館）

講 師 山下慎治氏 2018年ロンドンマラソン
日本人3位
日本ブラインドマラソン協会
強化指定選手

演 題 「絆 ～誰もが誰かの光になれる～」



これまでの体験をお話ししていただいた



本校職員が伴走者を務めてジョギング

3限 競技体験会（グラウンド、2年1、2組）

山下氏の指導の下、ブラインドマラソンを体験した。
2人1組になり、1名がアイマスクを着用し、伴走者がロープを持って誘導した。初めは2人でコースを歩行、2回目は軽めのランニングを行った。伴走の生徒が、声をかけながらロープで誘導して、コースを走った。それぞれが役割を交替して行った。



山下氏指導の下、ペアでランニング…



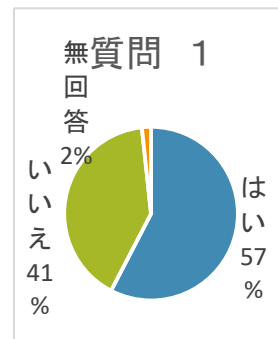
伴走者がアイマスクの走者に声をかけながら

5 11月15日 事後アンケート

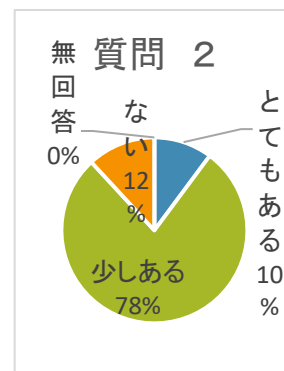
競技体験を行った2年1, 2組の生徒を対象に講演会、競技体験後のアンケートを実施した。

- 1 次の夏季オリンピックはいつ(西暦)、どこで(都市名)開催されるか知っていますか。

answer
2020年 東京

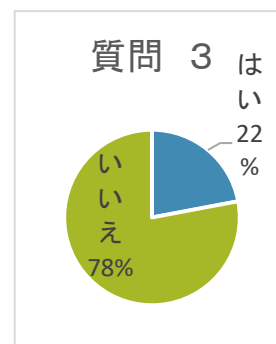


- 2 パラリンピックや障がい者スポーツに興味がありますか。



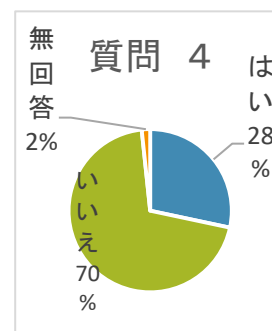
- 3 2016年パラリンピック・リオデジャネイロ大会において日本人がメダルを獲得した種目を知っていますか。

answer
ブラインドマラソン 車いすテニス



- 4 ブラインドマラソンでメダルを獲得した福岡県在住の選手名を知っていますか。

answer
道下美里選手



2クラスのみアンケートであったため、単純比較はできないが、質問2、3、4の回答において事前アンケートに比べてパラリンピックへの関心の高さがうかがえる回答が増えた。

<p>6 主な成果</p>	<p>① たとえ障がいがあってもあらゆることに前向きに取り組む講師のお話、姿に多くの生徒が感動した。</p> <p>② アイマスクを付けて走る体験をすることにより、視覚障がい者の日常を理解することができた。</p> <p>③ 競技体験を通して伴走者との信頼関係が重要であることがわかり、また社会生活においては視覚障がい者に対して自分たちが伴走者の役割を果たすべきであると気づくことができた。</p> <p><生徒の感想より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アイマスクを付けて歩いたり、走ったりすることを体験して、目が見えないことがこれほど恐ろしく、不自由なことだとは思わなかった。視覚障がい者の方の日常の大変さが少しわかった気がした。 ・ アイマスクを付けて競技体験では、伴走者の声と絆と呼ばれるロープを頼りに走らなければならず、とても怖かった。しかし、伴走者を信頼して声や誘導に従って走るとうまくゴールすることができ、伴走者との信頼関係が重要だと感じた。 ・ 障がいがあっても何事もポジティブに考えていることがすごい。本番で失敗しないように練習でたくさん失敗しておく、という言葉が心に残った。 ・ アイマスクを付けて歩いたり走ったりしてみても目が不自由な人々の日常が少しわかった。今後は目が不自由な方に対する接し方を考えて、少しでも協力できるよう行動したい。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>① 福岡県在住の講師を招聘することにより、障がい者スポーツをより身近に感じさせることができた。</p> <p>② 全校生徒に向けた講演会と、競技体験会を組み合わせることにより、視覚障がい者の実態に触れることができた。</p> <p>③ 福祉教養コース(2年2組)には車いすで生活する生徒がいるのでこのクラスで競技体験会を実施することで、障がい者の日常生活により関心が高まった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>① 講師依頼、謝金等について、講師側と福岡県の規定について共通理解するのに時間がかかった。</p> <p>② 年度途中で新たな行事を設定することはかなり難しいので、前年度に行事予定を設定しておくのが良い。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>① 太宰府市在住の道下美里氏を講師に招いての交流会を検討する。</p> <p>② ボッチャ競技を通して近隣の特別支援学校との交流競技会の実施を検討する。</p>